

やまのべ 議会だより

創る、繋ぐ。子どもたちが誇れるまち

2026
令和8年1月28日発行
No.131

やまのべ議会だより
2026年1月号 VOL.131

いちがみさま
市神様に手を合わせ

定例会 一般会計補正予算の内容は 2～3

一般質問 町政のここはどうする? 4～7

議会活動報告 新しいまちへの挑戦 8～11

写真／山辺町初市
(関連記事 12ページ)

発行／山形県山辺町議会
編集／広報常任委員会

Eメール: gikai@town.yamanobe.yamagata.jp
〒990-0392 山形県東村山郡山辺町緑ヶ丘5番地
TEL.023-667-1117 FAX.023-667-1112

山辺町議会
ホームページは
こちら



第4回定例会

ニット議会開催

～お気に入りのニットで、町をPR～

議員と町幹部職員が町特産のニットを着用し、和やかな雰囲気の中、熱い議論を交わしました。

表紙の説明



令和8年山辺町初市が、本町、駅前、仲町通りにて1月12日(月)に開催されました。前日夜から急に降り積もった雪も午後にはやみ、祝日ということもあり、親子連れや子どもたちなどたくさんの方でにぎわった今年の初市でした。舞米豚の豚汁無料配布もあり、たくさんの方が列を作っていました。

道端には、市場(いち)の繁栄を司る「市神様」があり、手を合わせる親子の姿もありました。どんなことをお願いしていたのでしょうか。商売繁盛や、交通安全などこれまでたくさんの方を見守ってきた「市神様」。皆さんも道のほとりを目を向けてみてはいかがでしょうか。

皆さまにとって、素晴らしい一年になりますように。

編集後記

明けましておめでとうございます。昨年は皆さまにとってどんな年だったでしょうか。熊には振り回されましたが、大きな災害もなく穏やかな一年だったと思います。

さて、今年の干支は「丙午(ひのえうま)」。火の要素と馬の躍動感を持ち、活動的でエネルギー、新しい挑戦に良いとされる縁起の良い年だそうです。

私たち議会も、馬のように力強く前へ進む一年となるよう取り組んでまいります。

また、さらに分かりやすく、身近に感じていただける議会だよりを作っていきますのでどうぞよろしく願います。

遠藤 真由美 記

■発行責任者 議長 武田 啓一郎
■広報常任委員会 委員長 竹 俣 幸一
委員 渡邊 真由美
委員 佐藤 裕二
委員 日野 利春

議会だよりがカラー写真で閲覧できます。



歳入歳出それぞれ
2億7881万円を追加し
総額79億6842万円に

“住みよい まちづくりをめざして”

町の魅力発信で 選ば れるまちに！

令和7年度 山辺町一般会計補正予算

主な補正内容

- ふるさと納税寄附金の増により
 - ・ふるさと納税事業支援サービス委託料…………… **2952** 万円の増
 - ・ふるさと応援基金積立金…………… **2** 億円の増
- 情報通信ネットワーク管理運営事業の見直しに
 - ・DX 推進事業伴走支援委託に … **220** 万円の増
 - ・地域活性化起業人制度負担金… **1120** 万円の減
- 健康延伸展開事業の見直しで
 - 水中運動教室の中止などによる見直し… **335** 万円の減
- 安達峰一郎生家のかやぶき屋根修繕に… **149** 万円の増



落雪シート設置中の安達峰一郎生家

特別会計補正予算

会計名	増減	総額
介護保険特別会計	85万円の増	16億4630万円

公営企業会計補正予算

		増減	総額
簡易水道事業会計	資本的収入	183万円の増	204万円
	資本的支出	183万円の増	408万円
公共下水道事業会計	収益的支出	296万円の増	3億3397万円

※各会計は事業見込みによります。

請願第4号

請願名	保険薬局も無料低額診療事業の対象とすることを求める意見書の提出に関する請願		
請願者	山形県民主医療機関連合会 会長 茂木 紹良		
趣旨	院外処方箋の患者も無料低額診療事業の対象とすることを求めるもの。		
紹介議員	日野 一春	結 果	継続審議

請願第5号

請願名	国会議員の定数削減を行わないことを求める意見書の提出に関する請願		
請願者	山辺町革新懇話会 峯田 博		
趣旨	国会議員数は多様な民意を反映し、参政権を保障するために小政党の議席も必要不可欠である。		
紹介議員	日野 一春	結 果	不採択
理 由	国会議員定数のあり方は国政全体の制度設計に関わる重大事項であり、地方議会から一方的に削減反対を求めることは妥当性を欠くものであり、代表制のあり方、選挙制度や財政負担など多角的な観点から国会自身が議論・決定すべき事項である。		

定例会のあらまし

第4回定例会は12月8日から10日までの3日間の会期で開催され、7人が一般質問を行いました。本定例会では、教育長の再任同意、条例の制定と一部改正、令和7年度一般会計補正予算、特別会計補正予算、公営企業会計補正予算、指定管理者の指定の14議案を審議し、全会一致で可決されました。また議員発議として上程した「山辺町議会活性化特別委員会の設置に関する決議」が可決され、同委員会委員長に佐藤利和議員、副委員長に神保稔議員が互選されました。

条例の制定と一部改正

○山辺町乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例
国が新たに創設した「こども誰でも通園制度（乳幼児が保育施設などで就業要件を問わず時間単位で柔軟に利用できる新たな通園制度）」を実施するための設備などにかかる基準を定めた条例です。

○町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正
人事院規則の一部改正に伴う改正。妊娠、出産などについて申し出た職員に対する意向確認などを行い、育児期の柔軟な働き方を実現するためのものです。

○町職員の育児休業等に関する条例の一部改正
人事院規則の一部改正に伴う改正。部分休業の取得パターンの多様化を図るものです。

り、育児期の柔軟な働き方を実現するためのものです。

○町特別職に属する者の旅費、費用弁償に関する条例の一部改正
○町一般職の職員の旅費に関する条例の一部改正
国家公務員などの旅費制度の改正に伴い、職員などに対して支給する旅費などに関する諸般の基準に準じた見直しを図るものです。

○町一般職の職員の給与に関する条例の一部改正
人事院勧告および県人事委員会勧告に鑑み、職員の給与を改定するものです。

○財産の交換、譲与、無償貸付等に関する条例の一部改正
公有財産などを有効に活用するため、貸付額などを柔軟に対応できるようにするものです。

議員発議

○山辺町議会議員及び山辺町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部改正
公職選挙法施行令および公職選挙法施行規則の一部改正に伴い、当該法律の措置内容に準じた対応に改めるものです。

○山辺町議会活性化特別委員会の設置を決議
議員のなり手不足が深刻化しているなか、多様な人材が議会に参画できる環境を整備し、議会活性化を図るための調査研究、検討を行う目的で委員会を設置するものです。

指定管理者の指定

公の施設 山辺温泉保養センター
指定管理者 株式会社グリーンクアパーク
期 間 令和8年4月1日から令和11年3月31日まで

人事案件

○山辺町教育委員会教育長任命に同意
長岡 均 氏
任期満了に伴う再任に同意



一般質問

町政のここはどうする？

一般質問は、議員が町の行財政や将来に対する考え方などを問い、適切な町政運営を進めているかチェックするものです。山辺町議会では、年4回の定例会で議員が一般質問をしています。

12月の定例会では、7名の議員が一般質問を行いました。

じん ぼ 神保	みのる 稔	人事・農業振興	次期町長選挙への立候補の意欲は町内農業の現状と課題に向けた推進策は
なべくら 鍋倉	たけし 竹志	防災連携強化	災害時における町と自主防災会との連携体制は
ひ の 日野	かずはる 一春	養豚と循環型農業	飼料用米の生産状況は
たけまた 竹俣	とも 朋	クマ対策	有害鳥獣対策および危機管理の強化を
さとう 佐藤	としかず 利和	教育行政	町の教育の取組みと熊の安全対策は
むらやま 村山	こういち 幸一	財産管理	旧校舎をどう利活用していくか
えんどうま 遠藤真由美	ゆ み み	文化財保護	「町文化財」今後の保存と整理は

※一般質問は、一問一答方式ですが、紙面の関係で主な質問と答弁を要約して掲載しています。



定例会のお知らせ

今回の定例会は3月です。
傍聴については、町ホームページをご覧ください。
電話 023-667-1117（議会事務局）

人事・農業振興

次期町長選挙への立候補の意欲は



（町長）「やまのべの未来」のさらなる向上に再選を目指す

【質問】令和8年11月5日任期満了の町長選挙に立候補の意欲は。

【答弁】国・県の支援策と町独自の支援策を複合的に講じていく。

【質問】「持続可能なまちづくり」と「町の魅力発信」や「選ばれる町」「町民の幸福度」の向上などを目指し、「情熱と実行力」をもって全力で取り組んでいく。

【答弁】現在の諸問題を整理し、目標設定に努めていく。

【質問】農業振興計画の策定は。

【答弁】現在、目標設定に努めていく。

【質問】50年以上続いた減反政策。町内で果樹の伐採後、水田に戻すことが可能か。

【答弁】可能だが、これまでの経緯や状況により判断する必要があるため、事前には。

【質問】どの部門も高齢化、担い手不足により経営が深刻化している。新たな担い手確保対策としての地域おこし協力隊の募集や引き続き

【答弁】可能な限り、経営が深刻化している。新たな担い手確保対策としての地域おこし協力隊の募集や引き続き

【質問】町内農業の現状と課題に向けた推進策は

【答弁】町内農業の現状と課題に向けた推進策は



冬から早春に咲くクリスマスローズ栽培（作谷沢地内）

防災連携強化

自主防災会との連携強化を



（町長）さらに町と地域の防災力向上を図っていく

【質問】町と自主防災会の連携体制はどうなっているか。

【答弁】職員が総会などに参加し行政情報の提供や意見交換などを行っている。また会長との意見交換会を毎年開催しており、昨年度は全ブロックで防災関係の取組みが実施された。

【質問】自主防災会連絡協議会を通じて、情報共有、研修会開催、総合防災訓練への参加促進を行い、地域防災力の向上を図っている。

【答弁】訓練以外の協働強化策はあるのか。

【質問】要配慮者避難支援プランを通じて連携、担当職員の要望地区への訪問など、平時からの関係づくりを進めている。避難所運営での協働も検討する。

【答弁】今後の連携方針は。

【質問】訓練経費補助、資器材購入補助、水消火器などの貸出し、県自主防災アドバイザー派遣、各種研修会の案内など多面的な支援を行っている。

【答弁】今後の連携方針は。

【質問】ブロック協議会との意見交換はどの程度か。

【答弁】今後の連携方針は。



防災訓練時の避難所受付の様子

養豚と循環型農業

飼料用米プロジェクト循環型農業は



（町長）生産者支援に国や県の支援および町事業を活用する

【質問】飼料用米プロジェクトの立案者は。行政の関わりは。

【答弁】2007年に水稲生産者有志と養豚業者、町が主食用米から他作物への転作方法を検討したことが発端となり立案された。関連事業所とのマッチングを図り独自の取り組みを立ち上げた。立ち上げ後は、JAやまがたと町産業課を事務局とした飼料用米推進部会を設け、関係事業所及び機関において、定期的な情報交換などを行っている。

【質問】飼料用米の栽培に組織・農家の実状は。

【答弁】飼料用米の栽培に組織・農家の実状は。

【質問】飼料用米栽培の利点は。

【答弁】飼料用米栽培の利点は。

【質問】飼料用米の栽培に組織・農家の実状は。

【答弁】飼料用米の栽培に組織・農家の実状は。

【質問】飼料用米の栽培に組織・農家の実状は。

【答弁】飼料用米の栽培に組織・農家の実状は。



飼料用米が栽培されている水田

相談いただきたい。

【質問】耕作放棄地の実態と農福連携事業の導入計画は。

【答弁】耕作放棄地の面積は約47・2haで総農地面積の約4・3%。農福連携事業の導入計画はないが、貸し借りなどを希望する農地などがあれば、相談いただきたい。

クマ対策と

危機管理の強化を



朋 竹俣 動ける体制を構築する

質問 クマの目撃情報件数と人的被害は。

けて動いている。設立後に総合的に判断していく。

回答 目撃情報は令和5年度2件、6年度4件、今年度は11月末現在で12件。人的被害はない。

質問 クマの出没の要因に、森林・里山の荒廃があげられるが、里山保全の施策は。

クマ出沒の要因に、森林・里山の荒廃があげられるが、里山保全の施策は。

質問 山辺町猟友会の会員数と狩猟免許ごとの員数は。またガバメントハンターの存在と任用の考えは。

回答 会員数は47名。第一種銃猟（散弾銃、ライフル銃）20名、第二種銃猟（空気銃）1名、わな猟42名、網猟0名。ガバメントハンターはいない。安全性などの観点から今のところ任用は考えていないが、県が専門的な中間支援組織の設立に向

また、やまがた緑環境税を活用し、里山保全に取り組む地域活動団体と連携した支援事業や、小学校の木育授業を通じて自然学習にも取り組み、クマなどの野生動物とのす

里山の保全や人との境界を明確にするために、森林環境と里山の再生に取り組んでいる。また、やまがた緑環境税を活用し、里山保全に取り組む地域活動団体と連携した支援事業や、小学校の木育授業を通じて自然学習にも取り組み、クマなどの野生動物とのす



野生動物とのすみ分けのためにも守るべき里山がある

町の教育の取り組みと

熊の安全対策は



利和 佐藤 一体となって取り組む

質問 町の子どものための学力向上に対しての取り組みは。

主にな国学力学習状況調査を分析し、今後の重点課題などについて協議している。

回答 外部委託による学力検査や文部科学省による全国学力学習状況調査をもとにした児童生徒の実態把握、学力向上対策委員会などの開催、授業研究会開催時の主任指導主事による具体的な指導。それらをもとに、課題や良い点などを把握し、授業改善に向け、学校現場と教育行政が一体となって学力向上を図るべく取り組んでいる。

質問 町の学力向上対策委員会では、どのような協議がなされているのか。

回答 国の施策に沿って環境整備を行っており、今年度は、各小中学校へ電子黒板の整備を行っている。

質問 GIGAスクールの取り組み効果は。

熊除け鈴の配布や、対応チェックリスト及び関係機関連絡体制図などにより、即時対応できる体制を構築している。



電子黒板を使った授業の様子

質問 タブレットや電子黒板の使用状況は。

学校側が必要に応じてICT支援員と連絡を取ることで、機器の操作方法の説明を受けられるようにしている。ICT機器はあくまでツールであり、児童生徒の学力向上という目的のため、学習を進めてもらっている。

質問 熊出沒への安全対策は。

熊除け鈴の配布や、対応チェックリスト及び関係機関連絡体制図などにより、即時対応できる体制を構築している。

旧校舎を

どう活用していくか



幸一 村山 状のままに活用を検討する

質問 旧作谷沢小中学校校舎ならびに木造体育館の再利用をどのように検討してきたか。

回答 旧校舎の利活用について、これまで町から具体的な働きかけをしてきたことはない。建築から38年経過しており、多額の費用をかけて利活用することはできないので、現状のままで利活用できる方向で検討していく。

質問 旧山辺中学校校舎および体育館、また旧鳥海小学校・中学校校舎の老朽化が一段と進むなか、再利用できるのか。また一部

修繕して財産管理倉庫として再利用できないか。

回答 旧山辺中学校は昭和37年に建築し、耐震基準を満たしていない。平成8年に増築した3階建ての建物はあるが、旧校舎を利用しないと使用できない。

また昭和45年に建築した旧鳥海小学校も耐震基準を満たしていない。昭和59年に建築した旧中学校は構造的に問題ないが地理的要因など総合的に判断すれば利活用は難しい。

このことから、町の財政状況を勘案しながら計画的に解体すべきと考えている。

質問 旧大寺小学校校舎の利活用と今後の



旧作谷沢小中学校、観光拠点施設として再生できれば！

「町文化財」

今後の保存と整理は



真由美 遠藤 引き続き検討していく

質問 町内には郷土の歴史や文化、風土を伝える貴重な文化財が数多くある。文化庁によると「保存」と「活用」は文化財保護の両輪であるとされている。ふるさと資料館では毎年工夫をして展示（活用）しているが、そのための出し入れや整理について大変苦労しているという。台帳はあっても収納場所が収蔵品でいっぱいなので、職員が変

用が難しくなっている。現状を踏まえ令和8年度から保存方法を見直し再整理を検討している。また、県立博物館職員に指導を仰ぐなど、整理保存方法を検討する。

質問 現在資料館蔵の屋根裏や大門の収蔵庫は満杯の状況である。今後新たな保存場所の考えはあるか。

回答 そのような相談も受けているが、貴重な文化財の保存場所がプレハブで良いのか、現場ともよく話し合いながら検討していく。



さまざまなテーマによる企画展が好評のふるさと資料館

新しい町への挑戦

町の財産を生かし、
うるおうまちづくり

維持管理は大丈夫か

厚生産業常任委員会で11月10日に現地視察を行い、事業の進捗や管理状況、今後の課題を確認しました。

町道北垣船町線では、有事の際の重要な避難路となることから、路面補修や排水路整備の必要性を確認しました。大寺ふれあい公園では、8の字走行後の復旧状況を確認し、再発防止策や防犯カメラ設置の検討を求めました。

その後、山間部へ移動し、災害廃棄物処理の拠点として重要な松山処分場を視察し、環境への影響を抑えるための管理体制強化を会社側に求めました。大蔵棚田では、高齢化や担い手不足により維持管理が難しくなっている現状を踏まえ、「ふるさと原風景 棚田」の継承に向け、地域・行政・観光分野が連携した支援を要望しました。玉虫沼

農村公園では、維持管理が課題となっているため、省力化を含めた創意と工夫の検討を促しました。

当委員会では、今後も各課と連携しながら「まちづくり」を進めていきます。



降雪前に現地を視察（町道北垣船町線）

視察の学びを議会の力に

10月22日から24日まで、四国方面へ行政視察に行ってきました。

1日目は徳島県松茂町で「地方議会・議会運営の活性化」について学んできました。印象的だったのは、監視機能への松茂町議会の取り組みです。事業評価の詳細な説明を受けることで、より実効性のある事業実施に寄与できるそうです。また、松茂町の交流施設マツシゲートを見学し、平時ばかりでなく災害時にも活用できると知り、防災意識の高さを実感しました。わが町でも参考にした



マツシゲートの説明を受ける（松茂町）

と思います。

2日目は香川県琴平町にて「町立小学校・認定こども園の再編整備」について伺ってきました。少子高齢化が進んでいる中で、子どもたち、保護者たちが良かったと思える教育施設を立案し推し進めています。住民の反対という厳しい場面も乗り越える信念など、非常に勉強になりました。

この研修で学んだことを持ち帰り、まちづくりに役立てていきます。



琴平町の議長を囲んで（琴平町）

私たち議員は本会議場や会議室などで協議をすることが非常に多いです。でも時には外へ飛び出して行政視察や外部での研修を行ったり、各団体や地域の皆さんと交流を図ったりしています。令和7年10月から12月の議会活動・議員活動の一部を紹介します。ぜひご覧ください。

文化財の保管と旧校舎の現状は

総務文教常任委員会では、文化財の保護と保存体制のあり方を検討するため、11月5日に山辺町ふるさと資料館と大門収蔵庫の保管状況について現地視察しました。ふるさと資料館は町の歴史や文化財の保存・展示の拠点ですが、西藏や南蔵の2階は足の踏み場もないほど収蔵品が密集しており、大門収蔵庫も含め、早急に保管方法のあり方の検討が必要だと感じました。

その後、廃校となっている旧小中学校施設の現況も視察しました。現在、これらの施設は、体育館やグラウンドのスポーツ利用をはじめ、学童保育やドクターヘリのランデブーポイントとして活用されているところもあります。しかし、全国的には観光施設や宿泊施設としての利活用事例もあ

ることから、今後は多角的な視点での施策展開も視野に入れる必要があると感じました。



環境も良く、早い利活用が望まれるきれいで広い校舎（旧作谷沢小・中学校）

災害に対する備えは万全？

中山町・山辺町両町議会議員協議会が、中山町防災センターにおいて12月12日に行われ、両町の防災対策について聞き、令和2年7月豪雨の状況や、それぞれの水防災に対する取り組みを確認しました。また、「石子沢川排水機場」と「垂直避難拠点」、「水防拠点」の各施設を現地視察しました。

両町では災害時の「相互応援協定」を結んでいます。協定内容や、両町の防災対策に係る現況について、行政として自分の町に足りないものは何かを学ぶ必要があります。



水害から町民の安全を守る石子沢川排水機場

どうする！議員のなり手不足

朝日町・山辺町両町議会議員協議会が、朝日町で10月15日に行われました。はじめに(株)朝日相扶製作所を訪問して、企業の成り立ちやものづくりへのこだわりなど、企業理念について研修。手作業で丹念に作られた製品が海外まで広がっていることや、従業員に地元の方が多いことなど、地域産業として確固たる地位を築いていることが分かりました。その後、協議の場では、共通課題として、他の地方自治体でも直面している議員のなり手不足について、両町議会とも喫緊の課題として取り組まなければならないとの活発な意見が交わされました。



共通課題の共有で問題解決を



町の財産を生かし、
うるおうまちづくり

主な活動（令和7年10月～12月）

議会運営委員会（11/10、11/25、12/2、12/10）	政策提言書提出（10/14）
総務文教常任委員会（11/17、12/8）	例月出納検査（10/20、11/21、12/22）
厚生産業常任委員会（11/18、12/8）	定例監査（10/29～10/31）
広報常任委員会（10/6、10/20、12/2、12/23）	山形広域環境事務組合議員研修（11/6～11/7）
全員協議会（11/25）	最上川中部水道企業団議会臨時会（12/18）

防災訓練



安達峰一郎記念 世界平和弁論大会



さまざまなイベントにも 参加しています

まるとフェスティバル



交通安全大会



福祉のつどい



お茶のみサロン

「未来を話す会※」がきっかけで嬉しいつながりが生まれました！

町内で活動している9団体16名の方から参加いただいた『未来を話す会』では「各団体の活動内容を初めて知った」との感想がありました。

その報告会を縁につながりをもった第3山辺地区福祉推進員会さんと図書ボランティア「てんこもり」さん。10月18日のお茶のみサロンの中で読み聞かせを依頼するなど、新たな交流が生まれました。

とても嬉しい情報をいただき喜んで取材させていただきました。

※未来を話す会については、「やまのべ議会だより」（令和7年10月29日発行 No.130）12・13ページをご覧ください。



誰もが安全に利用 できる道路に

国道458号改良促進特別委員会では、12月17日に道路改築事業の理解を深めるための勉強会を実施しました。

はじめに、工事区間の現場視察を行い、整備の必要性や課題を再確認しました。その後、役場会議室にて県村山総合支庁担当課の方から、国道458号（中山・山辺間）および主要地方道山形朝日線道路改築事業（山辺工区）の進捗状況と今後の見通しについて説明を受けました。委員からは、交通安全の確保や地域間交流の促進に資する早期事業推進を求める意見が出され、今後も関係機関と連携し、事業促進に取り組むことを確認しました。



早期の事業推進を求めて

なくてはならない 議会に

山形県町村議会議長会「町村議会議員研修会」が、10月27日に2名の講師をお招きし、山形ビッグウイングにて開催されました。

福嶋浩彦 中央学院大学教授は、市長であった経験から「住民の声をよく聞き、議論を重ね、自治体の意思決定していくことが大切」と力説されました。また、金井利之 東京大学大学院教授は「政策にとって重要なのは〈問題〉と〈目標〉を明確にすること。議員活動の大半は問題提起に当てるべき」と説かれました。

わが議会も、皆さんの声をよく聞き、議論し、問題点を探って改善しようと動いています。この度の学びをしっかりと生かし、町政に反映できるよう提言を続けていきます。



どんな講演内容になるのか楽しみ～

厳かな空間での 研修会

山辺町の商工会役員と議会議員の懇談会が12月15日に開催されました。

今年は新しい試みとして、商工会館から安国寺本堂に会場を移し、講演会の後に懇談会を設けるというスタイルで実施。

講師に成安寺住職木村尚徳氏（山形市）を迎え「本気で生きることに目覚める」と題し、座禅の意味と無の境地による気づきについて分かりやすく教えていただきました。“こころ”を整えるという意味での“調心”のお話しなど、興味深い内容ばかりでした。



座禅で無の境地を

信頼される議会を 目指して

村山地方町村議会議長会「議員合同研修会」が12月19日に開催され、元全国都道府県議会議長会事務局次長 内田一夫氏より「議員の責務と一般質問のあり方」と題し講演いただきました。

講演の中で、議員の責務と活動とは住民福祉の向上であり、議員の心得とは自治体の資産価値をいかに高めるかである。そのために、まちなかのささいな変化にアンテナを張ること。また、一般質問により議論を活性化させる責任があるとの言葉に、改めて議員の資質と議員力の向上が必要と再認識した研修会でした。



本年度は山辺町中央公民館で開催